

人物伝教材と日本文化教材による道徳教育の研究

研究の概要

本研究は、道徳教育に関する授業改善および教材開発、ならびに教育的資産としての日本の伝統文化の教材化の可能性を探ることを目的としています。

道徳教育においては、現場の教員の不安感に寄り添った授業改善に取り組むとともに、特に人物伝教材に着目し、生徒が「自分ならどうするか」を主体的に考える授業の開発を目指しています。近年では、人物伝とAIの活用を組み合わせた授業モデルの開発にも取り組んでいます。また、地域の人物に関する教材開発も進めています。

日本文化を基盤とした教育については、例えば、伊勢の神宮に関する歴史や文化、江戸時代の「おかげ犬」に見られる助け合いの精神などを題材とした授業開発を行っています。さらに、古事記「を」教えるのではなく、古事記「で」自己の生き方の問いとして読み解く教材研究にも取り組んでいます。

これらの研究成果を基に、学校現場における授業づくりの支援や教員研修、地域人物教材の開発、一般向け公開講座などを通して、学校・地域・大学の連携による教育実践の展開を目指しています。



キーワード



- 道徳教育
- 人物伝教育
- 中学生からの日本文化（伊勢の神宮・古事記）

連携アピール



中学校教員として12年間、道徳教育および神道教育に携わってきました。道徳教育では、現場の先生方の困っていることに寄り添った授業改善、文部科学省検定教科書の執筆にも関わっています。また日本文化を基盤とした教育については、伊勢の神宮や古事記に関する教材開発を進めてきました。出前授業や一般向けの公開講座などを通じて、こころ温まる取り組みを実施いたします。

研究者



松尾 大輔 助教 修士（文学）

MATSUO Daisuke



教育学部 教育学科

